

明日の山口大学ビジョン

～創立200周年を超え2020年にキラリと光る大学へ～



地域から世界を見据える

University Social Responsibility

社会連携

人間力や国際理解力を育む

Education

教 育

総合的理解,課題解決,
新たな価値の創造をめざす

Research

研 究



本学の前身「山口講堂」の扁額
(山口大学商品資料館保存)



「長州五傑」記念碑
(2006年4月26日建立 於:大学構内)

明日の山口大学ビジョン

～創立200周年を超え2020年にキラリと光る大学へ～

山口大学は、2015年に、本学の前身である山口講堂の設立（1815年〔文化12年〕）から200周年という節目を迎えます。この間、地域の人材育成に貢献するとともに世界で活躍する人材も送り出し、多くの研究成果をあげてきました。

そしていま、地域の基幹総合大学として、さらなる教育・研究の発展・充実を目指しつつ、地域に根ざした社会連携を進め、明治維新発祥の地に根付く「挑戦と変革の精神」を受け継ぎ、アジア・太平洋圏において独自の特徴をもつ大学へと進化していきます。

本学は、国立大学法人化を契機に「山口大学憲章」の起草に着手し、2007年2月にこれを制定しました。「山口大学憲章」は、本学の20世紀の活動を踏まえ、21世紀における責務を掲げたものです。

現在、国立大学は法人化に伴い自主性・自律性を備えた運営体制のもと、オンリーワンの大学として発展しようとしています。また、同時に国立大学法人運営費交付金を受ける大学として、教育・研究の質の向上と社会への説明責任を果たすことが求められています。そのため、6年毎に中期目標・中期計画を策定し、その達成状況について、第三者機関による評価を受け、結果を公表することが定められています。

本学は「山口大学憲章」の基本理念に基づき、第Ⅰ期中期目標期間の3分の2を過ぎたいま、学内外の関係者の意見を踏まえつつ、第Ⅱ期及び第Ⅲ期中期目標期間を見据えながら、「明日の山口大学ビジョン」を策定することとしました。

ここに“創立200周年を超え2020年にキラリと光る大学”としての本学の目指すべき方向について、『教育』、『研究』及び『社会連携』のそれぞれの視点から中長期的な展望に立って大学の将来像を提示します。

2008年2月

教 育

Education

山口大学は、学生と教職員が一体となり、“共育”する大学をつくっていきます。「課題探求力」や「チャレンジ精神」などの「人間力」を備え、「国際理解力」と「高い専門能力」を持つ人材育成を行い、社会の高い評価を受けるとともに、在学生や卒業生及び留学生の「誇り」と「信頼」を受ける大学になります。

そのため、学生教育を重視する大学として「育成する人材像」を明確にし、「教育プログラム」を不断に改善・充実して、学士課程教育や大学院教育を充実し、さらに、横断的な学問分野や新たな分野の学部の設置構想をも視野に入れた改革を進めます。

大学教育の根幹をなす学士課程教育の充実

○地域社会や国際社会で活躍する人材の育成

- ・社会人や留学生を含む多様な学生と研究力に富む教員とが切磋琢磨する“共育”を推進します。これにより、創造性豊かで幅広い視野と柔軟な発想を養い、専門性を備え、リーダーシップを発揮でき、かつ人間力に富み地域社会と国際社会で活躍できる人材を育成します。
- ・体系化されたカリキュラムと体験型学習の導入などにより、「学習成果」を担保し、課題探求力と豊かな英語力に加えアジアの言語によるコミュニケーション能力や国際理解力を備えた人材を育成します。
- ・世代や国籍を超えた多様な学生の交流による学習体験などのキャンパスライフを通して、公正・平等・友愛の精神に富む人材を育成します。

○人間力と問題解決力を培う学士課程教育の充実

- ・リベラルアーツを充実し、人間力溢れる人材育成教育を行うシステムを整備します。
- ・人間主義に根ざした協調と融和、そして自主独立の精神を涵養する教育を行います。
- ・問題発見と解決に資する能力を涵養するため、基礎に裏打ちされた実学を重視する「創成教育プログラム」を不断に推進するとともに、国際的に活躍できる人材育成のための創造性育成教育を行います。

○時代の変化に柔軟に対応できる教育環境及び教育方法の改善

- ・先進的かつユビキタスなIT環境を整備し、本学独自の取り組みと他大学や民間との共同の取り組みにより、新たな教育プログラムや教育方法を開発し、多様な教育を提供します。
- ・多様な学生に対応できる教員への支援体制と教育支援者の能力養成のため、教職員の能力開発のための体制を構築します。
- ・9月入学の拡大と国際交流協定校との連携の強化、学生の海外派遣の拡大、外国語による授業と体系的な短期研修プログラムの開発など、教育課程の見直しを行います。
- ・厳格な評価に基づき、学生がスキルアップできる体制を構築し、課題探求・解決学習、実践的教育を通して、卒業生の質を保証します。
- ・柔軟な思考力を備えた学生を育成するため、学部間の連携による教育の実施体制の効率化により、教育内容を充実します。

特色ある大学院教育の充実

○専門性と社会性を育む大学院教育の充実

- ・教員の高度な研究力・教育力のもと、大学院研究科が授与する学位にふさわしい専門性を有する国際的な教育水準の保証・認証を受ける大学院教育を行います。
- ・インターンシップや海外研修など多様な機会を提供し、学生の自発性を喚起して能力開発を保証するカリキュラムを構築します。
- ・産業界・地域等の社会に開かれ、年齢、性差、人種等にとらわれない多様な学生と教員による「共育・研究」を推進できる大学院の教育体制を構築します。
- ・文理複合型等のカリキュラムの導入を実現します。

○国際性豊かな大学院教育の推進

- ・学位授与の基準・方針を明確に提示するとともに、英語による講義を推進して国際的に通用する教育を行います。
- ・アジア・環太平洋圏の高等教育機関との連携を進めてサテライトを構築するなど、教育のハブ（結節点）となる拠点として、教員及び教育支援員や大学院生の国際交流を促進し、世界で活躍する高度な人材を育成します。
- ・留学生受入れの拡大と外国人教員の充実を行い、外国語による大学院教育を一層充実するとともに、留学生のための日本研究などの教育にも重点を置きます。

○地域の基幹総合大学としての特徴を生かした特色ある大学院の再構築

- ・地域社会や国際社会の要請に応え、文化の発展に寄与する人材育成のため、大学院教育に関連した予算を充実し、優れた教員を確保して、教育体制やカリキュラムの不断の再構築を行います。
- ・地域のリーダーとして活躍できる高度専門職業人と研究者の育成のため、高度な研究に支えられた研究力を基盤とする大学院教育のカリキュラムを構築します。
- ・大学間連携を促進して、先端的研究を広範囲にカバーした教育体系を充実します。

教育のための教員組織の改革

○全学的な人材活用と教員組織の見直し及び教員の重点的配置

- ・教育環境の変化や学問の進展に応じて、柔軟な組織再編を可能とするため、教育組織や教員組織のあり方を見直します。
- ・教員の教育能力の開発を進めるとともに、教育の質の保証を可能とする組織や環境を形成します。

社会と共存して発展するための学部及び大学院組織の改編

○新しい大学院の形態

- ・専門性と独創性に優れた幅広い人間力の獲得が可能なカリキュラムを有する大学院を構築します。
- ・研究科間または国内外の連携する大学院との間で、ダブルディグリープログラムを実現します。

○社会の変化やニーズに対応できる学部・大学院の構成

- ・社会の変化やニーズに対応できる学部及び大学院の構成を随時検討し、教育組織の改廃・新設を行います。

研究

Research

山口大学は、専門分野での学問深化と、分野間の協力で、総合的な研究によって、人間、社会、自然などの総合的な理解を進める研究、課題を解決する研究、新たな価値創造を目指す研究を推進します。

そのために、自己変革を繰り返しながら戦略的な取り組みを展開し、特徴ある教育研究拠点形成やイノベーション創出機能の強化などを実現するとともに、研究基盤を継続的に強化して多様な研究を促進し、「知の重層的なストック（蓄積）」を形成し、社会と大学との「バリュー・チェーン（価値連鎖）」の形成を目指します。

さらに、研究推進の取り組みと研究評価にもとづく改善を積み重ねることにより、研究において「複数の強みが連続的に生まれる大学」を築きます。

戦略的取り組みと研究拠点の形成

○戦略的取り組みによる世界をリードする研究中核体の形成

- ・個々の研究者がもつ意欲や能力を発揮して実現する研究の多様化促進の他に、国際水準の待遇と研究環境を用意して極めて優秀な外部人材を核とし、複数の研究部門から構成される「先進科学・イノベーション研究センター（仮称）」を設置し、中核研究拠点にします。
- ・このため、特別人事制度の創設、特例的投資指針の策定、外部資金を軸にした研究推進体制の構築等を進めるとともに、研究センターのパフォーマンス評価を定期的に行うシステムを作動させます。

○戦略的取り組みによる重点研究核の形成

- ・既存の研究センターや研究推進体などの中から重点育成研究コア候補を選定し、年齢、性差、人種等にとらわれず、優秀な人材を登用することを軸とする「人材戦略」、外部研究資金の倍増を軸とする「研究資金戦略」、国際的な共同研究と研究者交流を軸とする「国際連携戦略」のもとに、重点研究核を形成します。

研究基盤強化、協働、共創を通じた知の重層的なストックの形成

○研究基盤の継続的な強化による研究の多様性の促進

- ・個々の研究者のもつ意欲や能力の発揮のために、施設・スペース・設備機器などを「施設・設備のマスタープラン」に沿って計画的かつ継続的に強化します。
- ・全ての分野における多様な研究を支える学術図書や情報ネットワークなど、学術情報基盤の整備を計画的に推進します。
- ・飢餓と貧困の克服、平和な国際社会の構築、地球環境の維持・保全、心の豊かさの実現、心と体の健康、文化・歴史の継承、持続的発展可能な社会の構築など、世界の人々の期待に応える研究に取り組み、知の重層的なストックを形成します。

○若手,外国人,女性研究者,学生の活躍

- ・研究力を継続的に向上させるため,優れた若手研究者や女性研究者の計画的登用,外国人研究者の積極受入れを実現します。
- ・将来の学問を担う若手研究者の育成を重視し,研究支援はもとより,国際的な人事交流・派遣制度の充実を計画的に進めます。また,未知の課題に立ち向かう研究に参画する大学院生や学部生に対し,国際交流や留学機会の増大,就学に必要な経済支援の拡充などを進め,高度な専門能力,チャレンジ精神,広い視野などを総合的に育成して,社会が期待する人材を輩出する大学になります。

○知の重層的なストックを形成するための研究資金

- ・研究に必要な予算の確保・増強のために,外部研究資金獲得の戦略的取り組みを展開し,2020年には外部資金の大幅増を実現します。
- ・外部資金に付加される間接経費は,基盤的な研究の推進のためにも投資します。

○協働と共創によるプロジェクト研究の推進

- ・学内の研究資源を学外に開放しつつ,学外の研究資源も有効に活用してプロジェクト研究を推進し,国内外の大学間,産学間,官学間,民学間の連携構築を促し,国際的に通用するブレークスルーとなる成果を生み出します。

研究を通じた社会とのバリュー・チェーンの形成

○地域発展につながる研究の推進とバリュー・チェーン形成

- ・人文・社会科学,自然科学,両者の複合分野での多様な研究の成果を生かし,文化,歴史,社会,教育,健康,環境,医療,産業などの分野で地域交流及び国際交流を深め,研究が生み出す多様な価値をもとにバリュー・チェーンを形成します。
- ・地域の誇りや心の豊かさにつながる研究,新産業の創出,中小企業の活性化,農林水産業の再生等の地域課題に対応する研究などを推進し,西中国・北九州地域を豊かで競争力のある地域にするために力を尽くします。

○イノベーション創出と知的創造サイクルの形成

- ・イノベーションの「種」となる基礎研究から生まれる「発見」を生かして,知的財産を創出し,国内外の産業界との間で知的創造サイクルを構築します。

研究において複数の強みが連続的に生まれる大学へ

○“2020年にキラリと光る山口大学”にふさわしい研究力と研究体制

- ・明治維新を成し遂げた先人のスピリットと知恵を受け継ぎ,継承と発展,挑戦と創造,協働・共創の精神で,必要に応じて,育成と蓄積,選択と集中を図り,決断をもって教育研究組織の改編を行います。

○研究活動の評価と改善によって複数の強みが連続的に生まれる大学

- ・大学の研究活動が社会から理解され支援されるようにするため,研究評価の結果を組織別に公開します。
- ・研究者個人の自主的な研究活動の評価では,研究者を励まし,研究力向上につながる評価に重点をおきます。一方,組織化されたプロジェクト研究の評価では,目標管理やマネジメントの適否に重点をおきます。
- ・大学自身が実施する研究支援施策に対する評価結果も公開し,研究評価結果に基づいて施策の改善を図り,複数の強みが連続的に生まれる大学を築きます。

社会連携

University
Social
Responsibility

山口大学は、資質の高い教員や優れた医療人材など、様々な社会で活躍できる人材の養成・育成に加え、研究における国際連携の強化、先進医療の地域への提供、生涯学習及び産学連携など、教育、研究、医療、文化及び経済の各方面から、地域社会や国際社会との連携を軸に据えた活動を発展させていきます。

本学は、地域の基幹総合大学として、また、アジア・太平洋圏において独自の特徴をもつ大学に進化することにより、教育・研究の成果を広く社会に提供するとともに、地域社会や国際社会との連携をかたちにし、社会の発展に寄与します。

地域社会の期待に応える活動

○地域の教育・文化の発展への寄与

- ・本学の地域課題に関する教育研究機能を生かし、教育・文化、医療・福祉、生活・環境、防災・安全、及び各種の地域政策や産業などの分野で、様々な取り組みを行う地域の諸団体と連携して、地域の期待に応える連携事業を進める大学としてさらに力を尽くします。
- ・公開講座及び開放授業等の実施・拡大、地域の諸団体と共催するフォーラムの開催などを通じて、地域住民が抱く大学との距離感をさらに縮め地域の中で存在感がある大学としてその連携活動を強化します。
- ・すでに実施している県や市町村などの地方自治体との包括的な連携協定、公設試験研究機関との組織的な連携協定を一層発展させ、ゆるやかな連携の枠を越えた人材交流機会の増大、互いの管理する施設・設備の相互運用の拡大などを実現し、高い水準の連携事業を展開します。
- ・大学の教育研究機能を生かして行う地域研究に関する連携事業、大学教員のもつ高度な専門知識の提供、地域の初等・中等教育を巡る諸課題への対応、地域社会に参画するための学生の自主活動への積極支援などを通じ、大学の教職員・学生と地域との“共育”を進めていきます。

○研究連携と地域イノベーションの推進

- ・人文・社会科学分野における地域の歴史研究、文化研究、経済研究などの成果、理工学分野における地域の自然研究、防災、インフラ整備と保守、環境の保全・復元、医学・保健学分野における地域中核医療の提供、住民の健康増進、農・獣医学分野における農林水産業の再生、食の安全、高度獣医療の提供など、様々な研究連携をさらに推し進めていきます。
- ・地域イノベーションの推進のため、大学におけるプラットフォーム機能を強化し、研究成果を地域産業界で活用することにより、産学連携を強化していきます。

○地域医療の充実

- ・卒前・卒後・生涯教育を通じ、質の高い医療従事者の育成や地域医療を支える人材を育成します。
- ・中国地方の中核医療拠点として難治性疾患の治療やQOL (Quality of Life) 向上のための先進医療を提供します。
- ・高度救命救急医療、がん治療、生活習慣病の予防・治療などの拠点として、地域医療に貢献します。

○高度獣医療の提供

- ・動物医療センターを中心に、西日本における拠点二次診療施設として、脳神経疾患や腫瘍性疾患などの分野における高度獣医療を提供します。

国際的な社会連携活動

○大学間ネットワークによる国際連携及び国際協力・交流の推進

- ・海外大学とのネットワークを構築し、交流協定校や海外の研究機関との交流・連携活動を活発化するとともに、交換留学及び国際的なインターンシップの派遣・受入の制度や事業を充実します。
- ・アジア・太平洋圏における海外現地拠点を確立するために、複数の海外オフィスを連携機関と協力して設置し、留学生の受入れ、研究者の交流、国際協力、国際産学連携などの加速的推進を支えます。

○高度先進医療による国際社会への貢献

- ・附属病院診療科においては、国際競争力を持ち、専門医を揃えて、外国人の受診・治療をさらに拡大するとともに、アジア・太平洋圏の高度医療と医学研究の発展に力を尽くします。

社会連携及び国際化のための体制構築

○社会連携及び国際化のための組織・体制の充実

- ・地方公共団体との連携により、地域再生に貢献するとともに、社会のニーズと大学のシーズの適合を目指し、地域貢献・社会連携及び国際化のための拠点形成と組織・体制の充実を図ります。
- ・政府系国際機関等との包括的な連携・協力のもと、人材育成、環境問題及び各種調査協力などの事業を行い、アジアを中心とした国際社会の発展に貢献します。
- ・民間企業や公益法人等との連携を推し進め、「国際協力の里」ネットワークを実質化して、開発途上国に対して先端技術や伝統技術等を提供する場を構築するとともに、国際協力事業を積極的に行います。
- ・「大学コンソーシアムやまぐち」の中心的役割を担う機関として、コンソーシアムが取り組む活動を積極的に支援します。
- ・国際交流を専門的にコーディネートできる支援人材の確保と養成を進めるために、外部人材の登用及び教職員の海外派遣や研修を計画的に進めていきます。

○戦略的な広報活動の充実

- ・インターネット時代に則した広報システムを強化し、連携構築に繋がる大学情報を積極的に開示・広報します。学術情報提供の面では、特色ある研究の成果等の公表、論文等に掲載された学術成果データベース YUNOCA（山口大学学術機関リポジトリ）を充実し、地域社会と国際社会に対する情報提供活動を強化していきます。
- ・産業界への情報提供機能を一層強めるとともに、ベンチャー企業の育成も促進するなど、地域活性化と地域イノベーションに尽力します。

ビジョン実現のための 運営方針

山口大学は、大学をめぐる情勢の変化に即応したスピード感のある意思決定と効率的かつ迅速な業務の実施、中長期的な行動計画と財務計画に基づく持続的な経営、社会のニーズに即応した柔軟な学部・研究科等の再編などを念頭に置き大学改革を進めます。

◆ 透明性を確保した健全で効率的な大学運営

- ・学長及び部局長等のリーダーシップのもと、透明性を確保した迅速な意思決定を行い、責任と権限を明確にした実施体制により、大学をめぐる情勢の変化に適切に対応します。
- ・学長を中心に、各副学長や部局長等が連携し、中長期的ビジョンに基づく戦略的な中期目標・中期計画を策定し、これを着実に実施し、大学改革を行います。また、策定にあたって、広く学内外の意見を聴くとともに、PDCAサイクルを確立し、業務改善を行います。
- ・業務の効率化・合理化及び事務組織の見直しを不断に進め、限りある人的資源を有効に活用するとともに、IT技術・基盤を駆使して、学生や社会に対して質が高く迅速なサービスを提供します。
- ・教員が、教育と研究に専念できる環境を創出するために、委員会体制を機能的に改善し、教職員間の協働体制を構築します。

◆ 構成員の活力がいかせる人事制度の構築

- ・教職員が健康で安心して働ける労働環境を保証するとともに、教職員の能力向上と業務改善に資するため、人事評価システムを充実し、適正かつ正当な評価を行います。
- ・定年年齢の見直しを検討するとともに再雇用制度を確立し、個人の能力や主体性が発揮できる多様な勤務体系や柔軟な給与制度の導入等、本学独自の人事制度を構築していきます。
- ・大学の人材養成方針に沿って、計画的に人材養成を行うとともに、人事の透明性を確保し、大学に貢献できる優秀な人材を、学内外を問わず登用します。

◆ 健全な財政の確保

- ・大学の持続的な発展と教職員の健全な生活を保証するため、中長期的な人件費の動向を踏まえた財務計画を策定し、人的資源及び財的資源を有効に活用します。
- ・競争的資金や民間資金等の外部資金の獲得及び自己収入を確保して、教育・研究環境の整備を進めるとともに、入学金及び授業料を抑制し、国立大学法人の使命として、広く教育機会の提供を行います。
- ・「山口大学教育研究後援財団」との連携・協力のもと、教育・研究の基金を充実し、基金の運用益を適切に活用して、教職員と学生が安心して活動できる教育研究環境を構築します。
- ・経費の抑制や削減を進めるため、業務委託組織を活用したアウトソーシング等による業務の合理化を行います。
- ・不正を許さない揺るぎない姿勢と取り組みを示すとともに、経営状況の健全性を毎年度公表し、社会からの信頼を得ることで、国や地方自治体からの公的資金の獲得を行います。

◆ 学生と教職員が「共に育み、切磋琢磨する」環境の整備

- ・先進的なIT基盤を有する大学としての特徴を活かした教育・研究環境を提供します。
- ・3キャンパスにおける教育・研究の基盤を整備し、各キャンパスでの4年（又は6年）一貫教育体制を構築できる環境にします。
- ・寄附金、PFI事業及び民間からの融資を活用して、施設・設備の高度化を図るとともに、学生、留学生及び若手研究者に対する支援を行い、キャンパスを学生及び教職員の夢をはぐくむ学舎とし、また、広く地域市民に開放します。
- ・西日本地区の大学等と連携し、施設・設備等の共同利用システムを構築することで、本学が拠点となる環境整備を図ります。
- ・同窓会の連合組織と連携し、在校生、卒業生、在校生の家族及び教職員とのネットワークを国内外に網羅し、大学の最新情報を提供するとともに、定期的に交流会を開催し、卒業後のキャリアアップ事業等を実施します。

◆ 「国際化」に重点を置いた大学運営

- ・国際化に関する明確な理念・目標の設定を行い、国際戦略を計画的に進めます。その際に、諸外国の動向を踏まえ、大学シーズとのマッチング・解析、リスクマネジメント、費用対効果の検証を行うとともに、第三者機関による国際化に関する評価を実施します。
- ・大学が行う国際化に係る取り組みの対象を地域の産学官民に拡大し、国際社会への貢献に寄与します。
- ・外国人留学生が安心して学ぶことのできる環境を提供するため、学生宿舎の充実、奨学金の支給など生活面における支援を行います。





YAMAGUCHI UNIVERSITY
山口大学

明日の山口大学ビジョン

～創立200周年を超え2020年にキラリと光る大学へ～

【お問い合わせ先】 国立大学法人山口大学総務部企画課
〒753-8511 山口市吉田1677-1
Tel:083(933)5076 Fax:083(933)5959
e-mail:sh041@yamaguchi-u.ac.jp
[http:// www.yamaguchi-u.ac.jp/](http://www.yamaguchi-u.ac.jp/)
